

外国人を敵視

差別と分断をもちこむ

参政党
に見る

排外主義の矛先は

外国人

「外国人は生活保護を受けやすい」「外国人の犯罪が増えて治安が悪化している」などと言って「日本人ファースト」を主張。

【事実はどうか。チラシの裏面をご覧ください】

外国人を敵視し差別する排外主義。その攻撃の矛先は、どこに向けられるでしょう。参政党の実例を見てみましょう。

女性

神谷代表が「高齢の女性は子どもを産めない」「男女共同参画は間違い」と発言。

『将来の夢はお母さん』という価値観を取り戻す(同党の政策)。女性の社会進出を敵視し、戦前の「家制度」を復活させる発想。

ジェンダー平等の提唱に対しても「日本は日本でいいじゃないか」「一部の活動家が言っているだけ」と敵視。

終末期医療

「終末期医療の全額自己負担化」を掲げる。

「過度な延命治療に高額医療費をかけることは、国全体の医療費を押し上げる要因」と。お金のない人の「生きる尊厳」を奪う主張。

国民全体に

排外主義の矛先が、やがては日本国民自身に向けられてくることは、歴史の教訓です。

神谷代表は、日本の侵略戦争を「大東亜戦争」と呼び、「領土的な野心で起こした戦争ではない」「自衛戦争という考え方もできる」と美化・肯定。

また、当時の天皇絶対の国家体制に反対する者に死刑を科し、共産党員をはじめ、自由や平和を求めた多くの良識ある人々を弾圧した治安維持法について、「共産主義者にとっては悪法。共産主義者を取り締まるものですから」と正当化。

参政党の「新日本憲法」(構想案)は、日本を「天皇のしらす(治める)君民一体の国家」とし、戦前をよみがえらせようとするものです。

日本共産党は絶対に許しません

103年つらぬいてきた信念で

日本共産党は、1922年の創立直後から朝鮮・台湾・中国からの日本軍の完全撤退、植民地解放を要求し、諸国民との真の友好のために103年間頑張ってきた政党として、排外主義の台頭を絶対に許しません。

排外主義の役割は、国民の不満や不安の矛先を、外国人など自分とは違う属性の人たちへと、そらすことにあります。

生きづらさの原因＝自公政治を力を合わせて変えましょう



外国人が増えて不安？

事実は
どうでしょうか

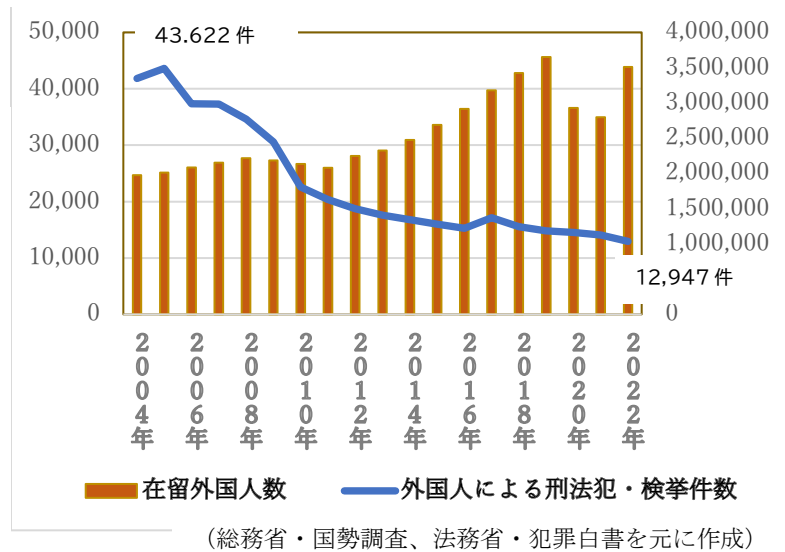
Q. 治安が悪くなっている？

A. 刑法犯は減っています

外国人による刑法犯の件数は、2005年の約4万3千件をピークにほぼ毎年減り続け、22年には3分の1にまで減っています(右のグラフ参照)。

在留外国人の人数が、同じ時期に約1.8倍になっていることを考えても、「外国人の増加で治安が悪化している」というのは、事実とは違います。

また、「罪を犯しても起訴されない」という話も、刑法犯全体の起訴率 36.9%に対して、外国人は 41.1%と、むしろ高いのが実態です。



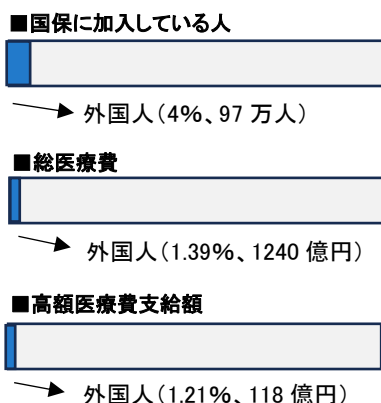
Q. 医療費を食いつぶしている？

A. 外国人の医療費給付はむしろ少ないです

国民健康保険加入者のうち外国人は約4%ですが、外国人に給付されている医療費は全体の1.39%。外国人への給付はむしろ少ないのです。(右グラフ)

日本に来る外国人は、働き盛りの健康な人が多く、税金や保険料を納めることで、日本の社会保障の重要な支え手にもなっています。「食いつぶし」など、とてもありません。

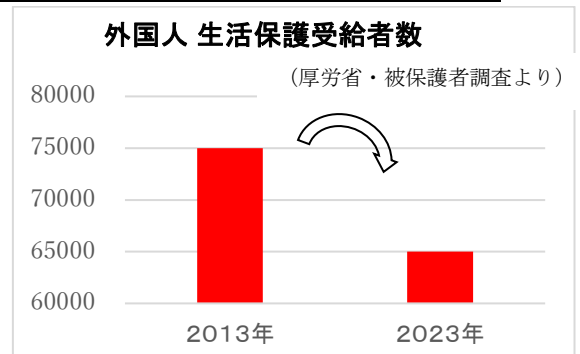
国保における外国人の状況 (厚労省のデータより作成)



外国人の国保料納付率は現在 63%。これを高めるためには、経済的困難の解決、保険制度への理解の促進が必要です。

Q. 生活保護費が増えてる？

A. 受給は減っています



日本に暮らす外国人は、この10年で約1.7倍に増えてましたが、上のグラフの通り、生活保護の受給は減っています。また、受給者全体に占める外国人の割合も、同じ10年間で 3.48%から 3.25%と減っており、「外国人は保護を受けやすい」というのも事実と反します。

生活保護は、憲法や法律にもとづく権利であり、外国人も含めて、誰でも使える制度でなければなりません。

外国人は、私たちとともに社会を支えている隣人です

誤解や偏見につけこみ、日本人との間に、対立をあおるのは良いことでしょうか？
生活圧迫、福祉きりすて、貧困と格差を作り出した自民党政治をいっしょに変えましょう